

はじめに、ことばが、あったか、
おこないが、あったかそれを、知らない
この奇異な、世界に生れたことを
私は、明らかに知っている

恐るべく永劫が私の周囲にある
或る時には氷のように冷やかにせまる
又或る時は眼もくらむばかりかがやかしい
私はその隅か中央かに落された点

愛は惜みなく奪う
見よ、愛がいかに奪うかを
弱さは真に醜さだ
それを私はよく知っている

私は、点となって、生れ出た
そして瞬くうちに、消えてしまう
私はいなくなるのを恐ろしく思うより
点となって生れたことを恐ろしく思う

愛は惜みなく奪う
見よ、愛がいかに奪うかを
弱さは真に醜さだ
それを私はよく知っている

雷が、鳴っても、雨が来ても、風が吹いても、犬に追われても、
逃げ廻った後に、そのみじめな、藪の中に最後の穴を掘る

雷が、鳴っても、雨が来ても、風が吹いても、犬に追われても、
逃げ廻った後に、そのみじめな、藪の中に最後の穴を掘る

愛は惜みなく奪う
思えば険しい道である
凡てのよきものの上に
ゆたかなる、幸あれ

(跡形もなく、溶けて、しまう
私は、いなくなることを知っている
自己に矛盾し、自己にさつつし、自己に困迷する、
それに何の、不思議が、あろうぞ)